

004_woodcarving_and_calligraphy

(⑤彫刻の3話)

- (1) 檜の日本一の大看板 大看板の金子九郎次
袋町生まれ。明治期、日本有数の柏崎宮大工集団
- (2) 離れ座敷 玄関前の「竹に雀」の黒柿 欄間
- (3) 紫檀・黒檀・鉄刀木などの唐木
吉澤家旧調度品 小川悠山の紫檀の座卓など
- (4) 離れ二階 手摺りの宝珠

(1) 檜の日本一の大看板

明治44(1911)年作成の大看板

かつてサフラン酒の通用門を飾った
日本一の大看板に彫られた
「(右側の)昇り龍と(左側の)降り龍」



本体部分は精巧な彫刻が施され、長さ640cm、幅194cm。その上に幅、奥行きともに212cmの屋根。全高は12m。

彫刻部分の作者は、北海道・函館の高龍寺の建造などにあたった柏崎の宮大工集団の彫刻家、金子九郎次とされる。（長岡・袋町生まれ）

大きく、且つ
精緻な彫刻

二頭の龍は、
薬師如来の
アトリビュート、
「昇り龍・降り龍」
の証拠



下の力士も、蛮人
で十二支を暗示
しているよう。

力士は、蛮人とも呼び、インドの鬼神でしたが、のちに善神となり、さらに薬師如来を守護する十二神将に変じたとされています。

離れ二階 手摺りの宝珠



美しい曲面彫りの宝珠です。
手摺りを欄干に見立てた、装飾の
擬宝珠とも見えますが、単なる装飾
以上に、訴えてきます。
「大看板」の龍、昇り龍・降り龍が
求め、獲得し、人々に幸せを施す
宝珠も意図したと思います。

鰻絵蔵の軒下中央にも。



いくつかの隠された宝珠に、鬼瓦の双龍、
衣装蔵・鍔絵蔵の葡萄唐草紋、
四神に蛮人、これらの意味を考えますと、
サフラン酒の屋敷は、薬師如来の住む
東方瑠璃光浄土を意図したという見方も、
許されるように思います。

仁太郎さんに聞いてみたい。

(2) 離れ座敷 玄関前の「竹に雀」の黒柿 欄間



美しい黒柿の大きな希少材木、渋の天然の配置を見事に生かしたデザインのカ、
堅い柿の木を一木・透かし彫りにした指物師の技、この三つの奇跡の集約。

「竹に雀」の拡大 ～頭部、羽の絶妙な渋の生かし方



黒柿の美

樹齢数百年を越える柿の古木のうち、ごく稀に黒色の紋様があらわれることがあります。この紋様があらわれた柿を「黒柿」と呼びます。

150年以上の古木にのみ現れ、10000本に一本という出現率とので、希少で、高価な材木です。

よく考えますと、「見事」と言うしかない、奇跡の彫刻です。

- (1) この40*20cmの一枚板の柿の木は大変な大木、しかも黒柿という貴重なもの。
- (2) 彫り込む前は、この1、2cmセンチ手前の平面にある縞文様を手掛かりに、少しずつ彫って、その奥の黒や茶の色の位置を想像しながらデザインを決めていったはず。
黒柿の出方を知り尽くした人なのでしょう。
- (3) 堅い柿の木を、一木の透かし彫り欄間に仕立てた、指物師の腕も凄い。

迎賓館の玄関を飾るにふさわしい逸品と思います。

なぜ、仁太郎さんは、この「竹に雀」の画題を選んだか。

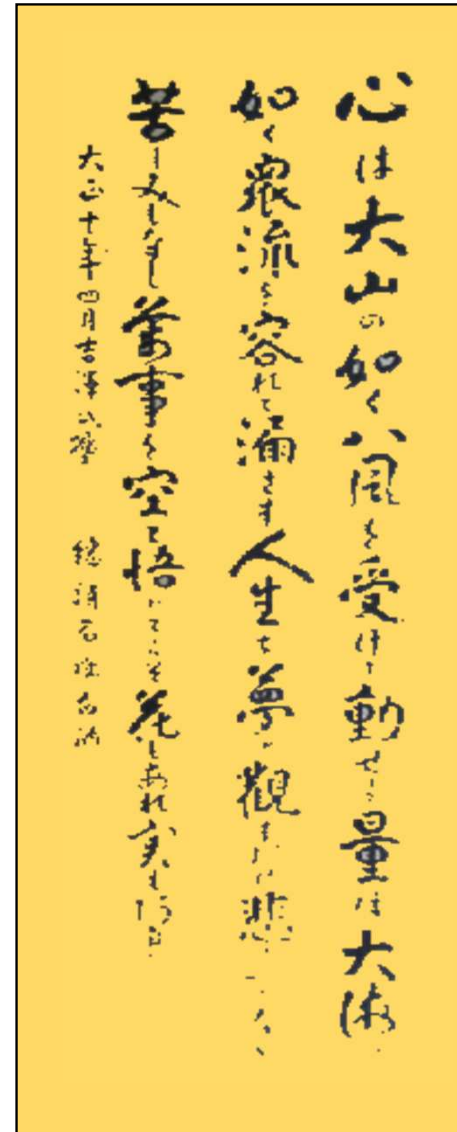
もしかしたら、『燕雀安んぞ鴻鵠の志を知らんや』の暗示ではないか、とも思っています。

この画題が、欄間の後ろの「石禅さんの詩」の心に呼応しているのでは、と気づき、仁太郎さんは、自身を鴻鵠ではなく、燕雀に例えたのでは、と思えました。

あまりに突拍子もない考えですが。

心は大山の如く
八風を受けて動ぜず
量(かさ)は大海の如く
衆流(しゅうる)を容れて漏さず
人生を夢と観すれば
悲しみもなく 苦しきもなし
萬事を空と悟りてこそ
花もあれ実もあれ

仏の教えの根本、諸行無常、諸法
無我を云っているように
思います。



『私は、若かったころ、まだまだ頑張らねば、
と懸命に頑張った。人生、山もあれば谷もある。
小さいことは気にせず、やっていこうと。』

たまたま、石禅師という方に、そのことをお話ししたら、
この軸を頂戴した。高邁な仏の教えとともに、
その意味、味わい方を伺い、納得したんだよ。』

そう言っているような気がするのです。

この黒柿の欄間も、作成する前から絵柄が
決まっていたものではないのです。

それと同じ、『萬事を空と悟りてこそ』で、
絶対というものはない。こだわりを捨てて、
与えられた環境で、融通無碍なる心で生きよ。

渋の有り無しを見出し、生かした結果、このような、
見事なものになったのだよ。

この場所は、彼の事業成功の集大成の場でもあった筈。
この迎賓館の玄関でこそ、自分の祈りと感謝、
自分への「ねぎらい」を表現したかったのでは、
と思わざるを得ないのです。

黒柿の紋様の発現の要因

根の部分で、球菌などの微生物がCa,P,S,Clなどを取り込み、生体アパタイト(燐灰石)を形成し、成長するに従い、更に黒色化。

そして年月を経て、幹の辺材部に黒色の縞模様(孔雀空)を作りながら珪化木(植物の化石)を形成。

田崎,竹原,橋田 et al, “希少銘木「黒柿」の物理化学的特徴と生体鉱物化作用”.地球科学(2017)

生体アパタイト Biological apatite layer

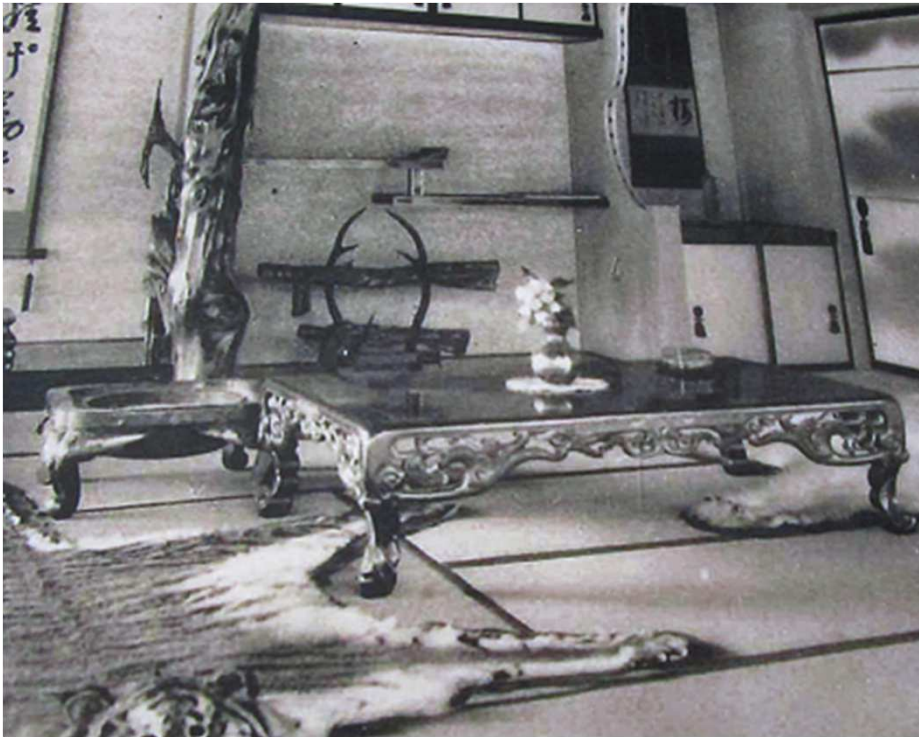
珪化木 Petrified wood

(3) 紫檀・黒檀・鉄刀木などの唐木



落とし掛けの鉄刀木
(離れ座敷二階の中座敷)

座敷にあった座卓



(離れ座敷1階南の座敷にあった座卓)

小川悠山は、晩年東京に移るまで長岡の大工町にいた指物師。

日本卓工芸において、その頂点に位置する小川悠山の座卓です。

明治期から昭和初期まで、唐木工芸師として、他の追隨を許さぬ技量で、多くの名品を世に残した名工です。

黒柿、鉄刀木の座卓の杳

杳(もく)とは、繊維のねじれなどで複雑な模様になった木材の「木目」のこと。

黒柿や鉄刀木は、独特の美しい杳目から、人気の高い木材。

紫檀・黒檀・鉄刀木などの唐木は堅く、重いことでもトップクラスの木材。

座卓天板の美しい木目

黒柿



鉄刀木(タガヤサン)



縞の美しさに、言葉がありません。

柿や、紫檀・黒檀・鉄刀木の堅い材木
だからこそ、 繊維のねじれ なのでしょう。

